

かがわ医療福祉総合特区 [指定：平成23年12月、認定：平成24年3月]

I 目標に向けた取組の進捗に関する評価

i) + ii) の平均値  $(4.0 + 3.5) / 2 = 3.8$

3.8

i) 取組の進捗

目標値に対する実績に基づく進捗度(当年度実績)

番号	評価指標	進捗度	評点
1	電子カルテ機能統合型テレビ会議システム「ドクターコム」等による遠隔医療の推進	108%	5
2	へき地薬局研修参加者数	100%	5
3	複合型サービス施設	100%	5
4	島しょ部における地域包括ケア病床の確保	0%	1

評価指標毎の進捗の評価の平均値  $(5 \times 3 + 4 \times 0 + 3 \times 0 + 2 \times 0 + 1 \times 1) / 4 = 4.0$

4.0

・1つの評価指標に複数の数値目標がある場合は、各数値目標の評価を寄与度に応じて加重平均する。  
 (例) 評価指標1について、a、b、cという3つの数値目標があり、各数値目標の評点・寄与度がa:5・20%、b:4・10%、c:3・70%の場合、 $5 \times 0.2 + 4 \times 0.1 + 3 \times 0.7 = 3.5$ で、四捨五入して評価指標1の評価は「4」となる。

■ 地方公共団体による特記事項

※外部要因による数値への大幅な影響等があれば記載

ii) 取組の方向性に対する評価

専門家による評価の平均値

3.5

II 支援措置の活用と地域独自の取組の状況に関する評価

i)、ii)、iii) の平均値  $(3.2 + 1.7 + 3.4) / 3 = 2.8$

2.8

i) 規制の特例措置を活用した事業等の評価

専門家による評価の平均値

3.2

ii) 財政・税制・金融支援の活用実績の評価

専門家による評価の平均値

1.7

iii) 地域独自の取組の状況の評価

専門家による評価の平均値

3.4

### Ⅲ 取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決に関する評価

(専門家所見(主なもの))

3.8

- ・在宅診療に対するドクターコム活用やへき地薬局研修実施により、へき地住民への医療サービス基盤が着実に構築されていることは評価できる。
- ・評価指標(4)の地域包括ケア病床について、病床設置に至ってはいないが、環境整備は進んでいると評価する。
- ・構想は優れているが、人口規模を勘案しても、目標件数や実績件数の推移を見ると、現計画で遠隔地の医療が担えるか疑問を持つ。構想と実施計画の再検討が必要と思われる。
- ・ドクターコムの運用にあたっては、医師との時間調整等が必要であり、場合により医師の負担になることも考えられるため、運用状況の精査が必要である。
- ・地域包括ケア病床の開設にあたっては、既設施設の体制整備に学び、医師におけるグループ診療や多職種によるチーム医療体制の整備といった院内での準備態勢を整え、地方厚生局との詳細な協議が必要である。

専門家による評価(専門家の総合的な所見)の平均値

3.8

### 総合評価

I、II及びIIIを1:1:2の比率で計算  $(3.8 + 2.8 + 3.8 \times 2) / 4 = 3.6$

3.6

(注)評価に係る評点及び表記の考え方については以下のとおり。

- ・評価は5～1(評点)で行う。
- ・進捗度は、100%以上を5、80%以上100%未満を4、60%以上80%未満を3、40%以上60%未満を2、40%未満を1とする。
- ・進捗度以外の評価項目における評点は、5:著しく優れている、4:十分に優れている、3:適当である、2:適当であると認めるには不十分である、1:適当であると認められないとする。